

2025年1月19日

「最初のしるし」

ヨハネによる福音書 2:1-11

早川 真牧師

今朝の聖書の個所の舞台であるカナという小さな村で、イエスとその弟子たちは婚礼に招かれました。しかしこの時、その婚礼の最中に葡萄酒がなくなるということが起こりました。7節に、イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。とあります。かめが水でいっぱいになるとイエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と指示しました。そして世話役が味見をすると、それはこれ以上ないほどに味の良い葡萄酒になっていたのです。

このイエスの最初のしるしは、やがてキリストがなされる大きな救いのしるしでした。それは、やがてイエスがすべての人のためにご自分の命をささげてくださいることによって私たちの罪を赦してください、そのことのしるしでした。

同じように私たちの日常の中に起こる出来事の一つひとつも、神の愛のしるしであると言えます。しかしそのことに気づくことができなければ、それはその時だけの喜び、また悲しみになってしまいます。そしてそのことに気づくことができるのは、神に仕える者の特権だと言えるのではないのでしょうか。そして私たちの人生にとって、日常の小さなことの中に神様の愛の働きを見ることができることほどの喜びはありません。

しるしは、私たちがイエスを信じるためのものです。イエスが私たちに約束してくださった新しい人生を喜ぶことができるよう、日常の小さなことの中に隠されている神のしるしを共に見つけて歩んでまいりたいと思います。